

9月7日(金) 賛助会員発表 第2室(9411)

## Teaching Material Development

代行経験から伸ばす海外旅行関連表現と TOEIC®Test スコア  
 Depart from proficiency in travel-related English and arrive at a higher  
 TOEIC score

倉田 誠 (京都外国語大学)

三村 仁彦 (トラジャル旅行ホテル専門学校)

Todd Thorpe (京都外国語大学)

企画社名：株式会社桐原書店

中学・高校から大学まで長年、英語を勉強してきた学生の多くは、一度は英語圏に行って自分の英語を試してみたいと考えるであろう。しかし現地に行くと、思ったように意思疎通ができず、自信を喪失し、満足に英語を話せずに帰国する学生も少なくない。この現実に対して、「この問題は英会話に慣れていないのが原因だ」と短絡的な意見をいう英語教員もいる。しかしながら、意思疎通の問題の最も大きな原因の一つには、生活語彙といわれる英語母国語話者にとっては当然の語彙が、日本人英語学習者に欠如していることがあげられるであろう。また、使われる表現が日本の中学や高校で習った学校英語とは温度差があり、リスニングという時間的制約がある言語活動の中ではうまく解釈できない場合も多々あるであろう。本発表では、このような問題に局所的に対応できるようなテキスト開発の必要性を明示し、その編集の焦点を論じたい。テキスト前半の編集焦点は海外旅行や短期留学などの際に、知っていれば反応できる生活語彙や、簡単ではあるが学校英語とは少し意味が違う語彙や頻出する慣用句をテーマ別に作成的に幾つか教示し、TOEIC 形式の語彙文法問題でリサイクルさせるというものである。そして後半は TOEIC®テストリスニング問題の中で反復練習させ、最後に平易なエッセイリーディングで締めくくるとというのが焦点である。発表では、このようなモチーフのテキストの有意性に言及する。

上述したように、英語母国語話者にとっては簡単な生活語彙であっても、我々非母国語話者にはすぐに反応できない場合が多々ある。また中学や高校で習う簡単な語句が違った意味や形式で使われているがために、それと理解できない場合もよくあるであろう。更にそのような状況で頻出する慣用句に慣れていないために、対処できない場合もよくある。しかし皮肉なことに、このような日常の生活語彙や慣用句は TOEIC®テストや英検などの資格試験では狙われるポイントであり、実際に頻出する。このジレンマに対処するために、本テキストは日本人英語学習者が英語圏に短期渡航する際に遭遇しやすい状況をテーマ別に設定し、その中で日本人がトラブルを起しやすい生活語彙や慣用句を

代行経験させ、予め習得させることを目標とする。

テキストのレベル的には、TOEIC 300～500を中心に設定することにより、中学と高校である程度基本語を習得している大学生にターゲットを絞る。学習者や教師が馴染みやすいテキストを心がけ、ホワイトスペースや日本語での設問を与えると共に、イラストや写真を多用し、情報の転写を促進する。また大学、短期大学のみならず、英語専門学校や英語科等をもつ高等学校でも使えるような内容や難易度を念頭に置く。

テキストの構成は以下のようなものである。

**(Warm-up)** 当該ユニットのテーマに関連した軽い練習問題を取り入れる。導入部分であるので、学習者に挫折感を味合わせないような平易で興味深い練習を与える。

**(Step 1)** 当該ユニットのテーマに深く関連した生活語彙を10個上げ、学習者にその日本語の意味を確認させる練習問題を与える。

**(Step 2)** 上記の(Step 1)で意味を確認させた語句をTOEIC、TOEIC Bridgeや英検タイプの語彙文法問題形式で与え、反復練習させる。10個の生活語彙をハイライトさせ、学習者の意識を高める。

**(Step 3)** 生活語彙に加え、当該ユニットの状況で使われる頻度が高い慣用句を選定する。

**慣用句を使った会話** その課のテーマ(例えば、電話)の状況で多用される慣用句を3つ与える。(例、1. Would you put me through to Mr. Robinson, please? 2. You're wanted on the phone. 3. Please hold the line.)その慣用句が会話の中でどのように使われるかを理解させるために、穴埋めや置換などの言葉の生産性を考えた問題を配置する。

**(Step 4)** **TOEIC** 簡単なTOEICやTOEIC Bridgeタイプの問題を解かせる。その際に、そのユニットで学習した語句や慣用句を問題の中でリサイクルさせて、学習者の意識を更に高める。各ユニットの問題を12問に制限し、90分の授業中で十分扱えるように配慮する。

**(Step 5)** **Reading Passage (200words 弱)** 旅行者や短期留学者が遭遇しやすいトラブル(文化の違いや経験不足)を扱う。内容も当該ユニットの内容と沿ったものにする。単なる平凡な無味乾燥なエッセイにすると、学生が興味をしめさない可能性が高いので、**advice column** 的なものにする。

本書の **regular unit** は12ユニット構成とし、6ユニットが終わった時点で **Review Unit** を一つずつ設ける。全14ユニットとして、半期授業にも対応できる形式にする。上記で概説したように、内容は旅行や短期留学において経験しそうな事柄をできるだけ時系列にしている。音声CDは新TOEICに対応し、英語の様々なバラエティー(米、英、加、豪)で録音する。最後にテキストを編む際に **User Friendliness** に付け加え、**Teacher Friendliness** を配慮した **TM** やサプリメントを編みこむ予定である。